

以前、十日町市(旧松之山町)浦田集落での農作業のお手伝いのことを書いたが、そのときに泊めてもらっている民宿「里美」のご主人、田中富士雄さんが昨年、作業中に大やけどをした。

深刻な状態だったが、さしいわい一命はとりとめた。これは短時間で十日町市街の病院まで搬送できたことが大きい。しかしこのような短時間での搬送は現在だつたからこそ可能だつた。

時々 草々

典型的な中山間地域である安塚、松之山から十日町へと続く国道が整備されていなければ、田中

さんの命はどうなっていたかわからない。冬場だったこともあってなおさらである。この事故以来、民主党の「コンクリートから人

越智 敏夫 (新潟国際情報大学 教授)



新潟国際情報大学 教授。専門は現代政治学理論。

好対照「2つの道路」

へ」というスローガンがどうも気になっている。やはり必要なコンクリート(公共事業)はあるの

空間はまるでSFのようだ。こういう場所を見る

ちは政策決定をいいかげんなものと考えているのではないかということだ。

変化してないようだ。政権交代にさえ期待してない人が多いというのはその表れだろう。

ではないか。しかしその一方で、十日町市の近くにはほとんど誰も通らない4車線国道も存在する。森のなかに突如現れる広大な道路

おち・としお 1961年愛媛県生まれ。立教大学法学部卒。慶応大学大学院政治学博士課程修了。96年、新潟国際情報大学講師。2006年に

道路建設の決定など政治家と業界と役所が適当に決めている、と思っている人は多そうだ。つまりそれは政治権力を信頼している人が少ないということではないか。

期待がどのような悲惨な事態をもたらしてきたか。人類は何度も痛い目にあってきた。回復しつつある田中さんに会いに行こうと走る国道で考えたことである。

昨年、政権交代、日本の政治は大きく転換している。しかし政治そのものに対する不信感はまだ

うことは人間として健全なことかもしれない。「あの人がやらせてくれる」という政治家への過度の期待がどのような悲惨な事態をもたらしてきたか。人類は何度も痛い目にあってきた。回復しつつある田中さんに会いに行こうと走る国道で考えたことである。